

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

弊社理事 石井正文(元駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第105回:内政の秋?外交の秋?

2025年10月9日配信

■内政の秋

- ・10月4日には、自民党総裁選挙が行われ、7月20日の参議院選挙で与党自民党・公明党が過半数を失って以降2か月以上にわたり続いていた、内政の「暫定的」状況が、漸く動くことになった。
- ・多数の党員の支持を背景に選出された高市新総裁は、その後党幹部人事を終え、現時点では10月15日に臨時国会召集(その後20日以降にずれ込む可能性が高くなった。)。首班指名選挙で高市自民党新総裁が総理大臣に指名され、その後組閣という方向で物事は動いているようである。
- ・一方、現時点では、未だ公明党との連立協議は終結しておらず、政治と金の問題を含むいくつかの問題について、自民・公明両党の間で調整が続けられている。
- ・仮に自民・公明の連立協議がまとまったとしても、衆参両院で少数与党であるという状況は変わるわけではないので、同時並行的に、潜在的追加的連立相手との政策協議が続けられ、遅くとも来年の通常国会開催までには、新たな連立の枠組みが成立するものと予想される。ともかく、内政の秋は、まだ始まったばかりだ。

■外交の秋

- ・一方、外交日程は日本の政治日程を待ってはくれない。特に例年秋は、各種多数国間会合開催が目白押しだ。以下、注目点・考慮点を述べる。

【参考:秋の主要外交関連日程】

- ・10月24日-26日 ASEAN関連首脳会合(マレーシア)
- ・10月25日 韓国で「独島の日」
- ・10月27日-28日 トランプ米国大統領訪日;日米首脳会談
- ・10月31日-11月1日 APEC首脳会合(韓国・慶州);米中首脳会談?
- ・未定 QUAD首脳会合(インド)?
- ・11月10日-21日 COP30(ブラジル)
- ・11月22日-23日 G20首脳会議(南ア)

- ・まず第一の山場はトランプ大統領訪日と日米首脳会談だ。

* そもそも、日本の総理が訪米する前に米国大統領が訪日し、日本で首脳会談を行うというのは余り例が無い。

- * 更に、この首脳会談は、その後の韓国APECの際の開催が予想される米中首脳会談の直前であり、トランプ氏の考えを聞き、日本の考えをインプットする最善の機会になる。
 - * 問題は、高市総理が準備のための十分な時間が取れるかどうかだ。米国大統領との首脳会談は、通常的首脳会談と異なり、話題が世界の全てに及びうる。
更に、日米2国間関係でも、同盟問題に加えて、今回は関税を含む経済問題の重要性が通常より大きい。
 - * 仮に15日に首班指名・組閣までたどり着いたとしても、そこから27日の大統領来日まで、平日は7日しかない(20日にずれ込めば4日)。その間に政務官・副大臣指名、ASEAN首脳会合出席(とその説明)、所信表明演説とその質疑、最優先課題の景気刺激策と補正予算提出と続く。
 - * 2月の石破・トランプ会談の事前総理説明は30時間程度に及んだと聞く。ということは、日米首脳会談だけ考えても、平日1日当たり4時間以上(20日以降の場合は1日7時間以上)の説明が必要な計算だ。総理のワーク・ライフ・バランスは確実に崩壊するだろう(もちろん、官僚のWLバランスは、最初から崩壊している。)
- この関係で、極めて異例だが、総理就任前に高市総裁に外交関係の説明を始めた、との報道がある。
- * ちなみに、トランプ大統領は、訪日前にASEAN関連首脳会合に出席することをコミットしており、その場で高市総理と同席することになるが、これは色々な意味で良いことである。まず、ASEAN諸国としては、中国の影響力伸長とのバランスで、米国のコミットメントの継続を直接要請し、肌で感じる機会になる。高市総理にとっては、ただでさえ緊張する2国間会談で「初めまして」というよりは、それ以前により非公式な感じでトランプ大統領に接触する機会があるのは助かるはずだ。
 - * 一方、ASEAN関連首脳会合には、中国からは通常、習近平主席ではなく李強首相が出席する。トランプは李強は相手にしないだろうが、高市総理は、中国首脳との最初の接点になるので、ここで日中首脳会談が行われる可能性はあるし(もちろん、APECの際に習近平主席と更に日中首脳会談をやる可能性も排除されない。)、この結果をトランプ大統領と東京での会談の際にシェアすれば、一定の意味があるだろう。

・第二の山場は、APEC首脳会談と米中首脳会談だ。

- * 以前から申し上げているように、関税が米国内雇用情勢悪化とインフレ招き足元を見られる前にトランプ大統領としては中国と有利なディールを結びたいだろうし、習近平主席は、国内基盤が若干揺らいでいる中で、長老からの「米中関係さえマネージできないのか」という批判に応えるために、早めの米中ディールを必要としている。
- * 今後の中国政治情勢を占う上で注目すべき四中全会は10月20日から23日まで北京開催が発表されたが、これは、米中首脳会談が行われる「前に」対処方針について習近平から説明を受け、それにタガをはめようとする動きとも言える。

* このような状況下で、どのようなディールができるのか要注目である。また、米中首脳会談は日米首脳会談以上に世界全体を取り上げることになるであろうから、台湾情勢のみならず、北朝鮮への対応、ウクライナ戦争停戦に向けた中国の役割などについても議論があるだろう。その方向性を事前にある程度知り、必要なインプットができる高市総理は、非常にラッキーだと思う。もちろん、そのためには十分な準備が必要であるし、この第一印象が今後のトランプ・高市関係を決めると言っても過言ではないだろう。

* なお、高市総理は、李在民大統領との首脳会談を行う良い機会になる。トランプ大統領と会談したばかりであり、李大統領の関心も高いであろうし、日韓関係がちゃんと滑り出せるかどうかは、高市外交の今後を占う上で大きな要素になる。直前の韓国側の「独島の日」を巡りどのような雰囲気になるかが若干気になるが、双方の大局的な立場からの自制を期待したい。

・第三の山場は、クアッド会合@インドだ。

* トランプ大統領が本年4月末のカシミールを巡るインド・パキスタン衝突を「調停」したと誇らしげに発表し、調停すべき「紛争」は存在しない(全てインドの物だから)との基本的立場からインドが反発し、更に、8月には、相互関税25%にロシア産原油輸入他を理由にしたペナルティーで更に25%を上乗せし、50%にしたこと等を背景に、米印関係は緊張している。

* その中で、元々インドがこの秋に主催する予定だったクアッド首脳会合にトランプ大統領が出席しない可能性が取りざたされている。インド側は開催の姿勢を崩していないが、未だ日程は発表されていない。

* 米印関係の緊張に加えて、上記の日程を見ると、トランプ大統領のクアッド出席の可能性は益々低いように見える。即ち、あれだけエネルギーに見えるトランプ大統領も6月14日には79歳になっており、通常余り長い海外出張はセットされない。ASEAN関連首脳会合(10月26日)→訪日と日米首脳会談(28日)→APEC首脳会合(31日-)と米中首脳会談、これに往復を入れれば、1週間を超えるのは確実で、更に韓国からニューデリーまで行くのは、通常であれば難しい。

* 日本にとっては、クアッドはインドを日米サイドにつなぎ留めておくための最重要の枠組みであり、そのインドが主宰する首脳会合には、米国に是非参加してもらいたい。しかし、米国が参加せずクアッドが迷走するのであれば、インドをつなぎとめるための別の枠組を考える必要が出てくる。具体的には、アジア版クアッド。現在のクアッドは維持しながら、米国の代わりにインドネシアを入れた新たなクアッドを創設するということだ。

* 今回の首脳会談に米国が欠席するのなら、代わりにインドネシアのプラボウォ大統領に参加を呼び掛けるというのは、インドの顔を立て、アジア版クアッドを創設し、抗日戦勝記念日に出席しそろそろ立ち位置を調整したいと考えているであろうインドネシアには渡りに船であり、一石三鳥ではないだろうか。はじき出された米国が懸念を示すなら、現行クアッドとの差を明確にすべく、韓国の李在民大統領にも参加を求め、ペンタゴン(日印尼豪韓)にすれば、地域的枠組みとしては、一層有用なものになるだろう。ちょっと難易度は高いかもしれないが。

以上

りそな総合研究所 理事 石井正文